

# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



## 指物

しまざきまさなり  
島崎 柁 成

(昭和63年度作品)

16mm映画・ビデオ  
カラー・16分

### プロフィール

住所、荒川区東日暮里4-23-11。

大正6年(1917)、東京生まれ。

昭和59年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

16歳のとき、兄、島崎国治氏(昭和59年没)に師事し、指物師としての修業をはじめた。以来、和家具製造に従事している。

昭和45年以来、日本伝統工芸展に入選している。この展示会は、人間国宝といわれる人の作品も審査されるほど、技術レベルの高いものであることから、島崎さんの技術は、高い評価を得ている。

和家具製造とともに、より高度な技術を要する『美術指物』を手がけている。美術指物は、自然木の木目の美しさを生かすこと、デザインや形のよき、すぐれた技術が施されていることの三拍子がそろって、はじめて作品として完成するという。

日本工芸会東京支部主催の「新作展」では、審査委員もつとめ、現在、無鑑査となっている。現在、荒川区伝統工芸技術保存会副会長。

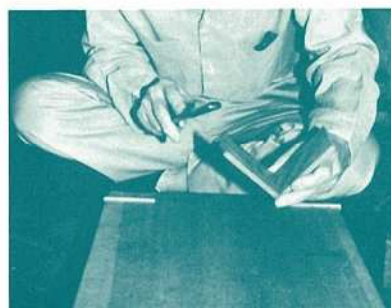
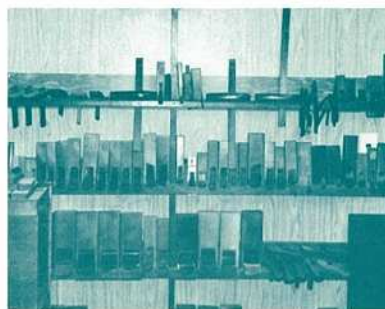
企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

## 用具・工具

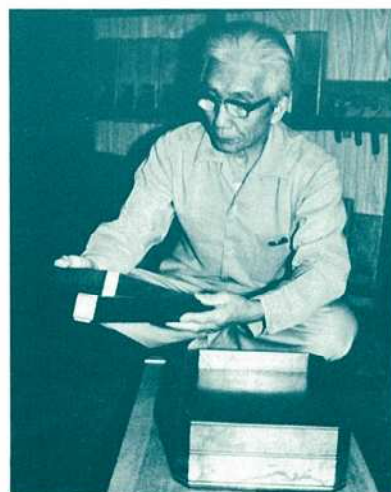
鋸、かんな、罫引、のみ、金槌、定規、生漆、脱脂綿、布、サンドペーパーなど。

## 工程——「桑拭漆料紙箱」——の場合

- (1) 「選材」——作品に使用する材料を選ぶ。  
今回の主材は桑（他に木象嵌用の柘植、黒柿）
- (2) 図面をひく。
- (3) 「木取り」——材料の木目・色合いを考えて、図面にしたがった「墨付け」を行う。
- (4) 切断。
- (5) 「荒削り」——かんな・罫引・定規などを使い、図面通りの寸法にととのえる。
- (6) 「仕上げ削り」——罫引を使って厚さを測りながら、正確な寸法に仕上げる。
- (7) 「柄組み」——指物では釘を使用せず、様々な方法の柄組みで板と板とを接合する。  
※柄組みの技法（今回の場合）  
「雇い柄」——多角形のものに使う技法。箱の側板に溝を掘り、別の板をはさみ入れることからこの名がある。
- (8) 組立て。接着剤を使って、各部分どうしを継ぎ合わせる。
- (9) 「木象嵌」を施す。——木地に他の木材をはめ込み、装飾効果を高める技法。今回は柘植の木で行っている。
- (10) 「甲盛り」を施す。——小がんなで、甲（箱の蓋の上部）の部分をきめ細かに削る。造形上の効果的な技法。
- (11) 磨き。サンドペーパーで全体を丁寧に磨く。
- (12) 塗装。今回は、生漆を脱脂綿や布に含ませて摺りつけ、その後和紙で拭き取る作業を何度も繰り返す「拭漆」の方法を採用している。
- (13) 仕上げ（点検）。



(柄組み)



(桑拭漆料紙箱)

利用される方は…………… ☎ **891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。  
貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。  
※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。